

美容電気脱毛における滅菌・消毒 及び 実技試験受験者の持込備品について

2022.10.12 版

実技試験での注意点

実技試験を受験される方は、減点の対象とならないように以下の滅菌・消毒及び、持込消毒剤、容器、備品について十分に理解の上、試験に臨んでください。

1. 滅菌と消毒の意味と方法

滅菌とは、対象物に存在するすべての微生物を殺滅または除去すること。

方法：オートクレーブ（高圧蒸気滅菌）、ドライヒート（乾熱滅菌）、ガス滅菌など。

消毒とは、対象物に存在する病原微生物を殺滅するか除去して感染が起こらないようにすること。

方法：消毒剤、煮沸消毒、紫外線消毒など。

2. 美容電気脱毛における滅菌・消毒の必要性

顧客から顧客、技術者から顧客、顧客から技術者へと病気の感染を防ぐため、そして顧客が脱毛施術による細菌感染を起こすことのないよう、すべての顧客に対して、下記の感染予防手段を確実に実行する必要があります。

1) 皮膚の消毒

皮膚には常在微生物など多くの微生物が付着しています。特に、脱毛後の毛包は雑菌が侵入しやすいなど、皮膚は細菌感染を起こしやすい状態になっています。脱毛施術による細菌感染を防止するため、**施術前後には必ず**施術部位を消毒**します。また技術者の手指、腕など**施術部位に触れる可能性のあるところも消毒**を行う必要があります。**

消毒剤には、消毒用エタノールやオスバン（塩化ベンザルコニウム水溶液）がよく使われています。施術前の消毒には、速乾性のある消毒用エタノール、施術後にははしみることの少ないオスバンが勧められますが、それぞれ人によってはかぶれることもありますので、その場合はどちらか一方、あるいは他の消毒剤を使用します。

【受験者の持込備品について① 皮膚の消毒剤・容器】

- 消毒用エタノール、オスバンまたは、モデルの体質に合ったものを用意してください。
- 脱毛施術後の肌に使用する消毒剤は、備品や手指消毒とは別の低刺激の消毒剤を用意してください。（例えば、エタノール配合であっても皮膚消毒専用の刺激の少ないものであれば可能です。）
- 消毒に使用するコットンは、試験開始前に滅菌状態が保たれた容器に入れて準備します。滅菌状態が保たれた容器を用意することが難しい場合は、使用の都度開封する個包装コットンの使用も可能です。
- 乾いた状態のコットンを取り扱う場合は、消毒後の手指で取り出すことが可能です。
- 消毒剤の容器は、ハンドラップ、トリガー、ボトル等の他、消毒液を浸したコットンを入れた万能ビン等も可能です。但し、その場合は滅菌済みのセッシンを使用します。また、一包ごと個包装の含浸綿を使用することも可能です。

2) 機器、備品類の消毒

技術者が手を洗い手指の消毒を行っても、施術中に触れるところを消毒しておかなければ意味がありません。例えば、脱毛器のスイッチ、ダイヤル類、プローブホルダー、プローブホルダースタンド、ライトのスイッチ・笠の部分、消毒綿の容器のフタなど、**触る可能性のあるところはすべて消毒**します。施術中に、消毒していない部分に触れた場合は、もう一度手指の消毒を行わなければなりません。

3) 備品の滅菌

細菌感染防止のため、毛包に挿入する**プローブは滅菌したもの**を使わなければなりません。滅菌の確実性、利便性の意味からも、滅菌済の使い捨てプローブを使用します。施術中に顧客の皮膚に触れる可能性のあるツイーザーも滅菌したものを使わなければなりません。ツイーザーは先端が鋭利なため、誤って顧客の皮膚を傷つけてしまう可能性がありますので、**ツイーザーも必ず滅菌したもの**を使用します。

ツイーザーの滅菌にはオートクレーブが簡便で推奨されます。ただし、滅菌する前にツイーザーに付着した有機物や、その他残留物質をよく洗浄して取り除くことを忘れないようにしてください。

【受験者の持込備品について② 機器・備品の消毒剤、備品類】

- 手指や機器、備品の消毒が可能な消毒剤を用意してください。
- ツイーザー、トレイ、セッシン・セッシン立て（使用する場合）は**いずれも滅菌済みのものを持参**してください。
- 試験会場に持参する際、滅菌器具の正しい取り扱いをしていない場合（ビニール袋や紙、布に包んで持参するなど）は、減点の対象となります。一緒に滅菌できる金属製の容器や滅菌バッグに入れる等、**滅菌状態を保つことができる方法で持参してください。**
- ツイーザーを忘れた、または、滅菌をしていない方は当日ツイーザーを購入していただきますが、数に限りがありますのでご注意ください。また、試験中に落としてしまった場合のための予備分も持参するようにしてください。トレイは金属製、使い捨てのどちらも可です。

3. 滅菌した備品の取り扱い

滅菌したものは、生きた微生物が全く存在しない状態なので、滅菌したもの以外が触れた場合、その瞬間から滅菌状態ではなくなります。消毒したものであっても、滅菌ではないので同じことです。例えば、滅菌したプローブやツイーザーの先端部を消毒した手で触れる、ワゴンやシート・ティッシュペーパーの上にツイーザーを直接置く、滅菌トレイに消毒綿を乗せる等をする、滅菌した意味がなくなってしまいます。**滅菌済のトレイの中に置いてよいものは滅菌済のプローブとツイーザーのみ**です。

滅菌済のトレイを滅菌バッグから出すときも、**トレイの内側には手を触れない**ように注意してください。トレイの外側は、ワゴンの上に置いた時点で滅菌ではなくなりますので、出す時に手で触れても構いません。

滅菌したものを扱うときには、どこからどこまでが滅菌されているのか、どこから触っていいのか、清潔、不潔の概念を正しく持って注意して扱きましょう。

以上